

## 全校終礼講話（（平成 29（2017）年 5 月 11 日（火））

今日の講話は、4月27日に実施した歴史講演会について、中間考査に向けての2つのテーマでお話をします。

歴史講演会で講師を務めていただいた樋口州男先生から、丁寧なお手紙が届き、大変うれしく思いました。

その文面からは、皆さんの素晴らしさと、母校の後輩に送る大変大切なメッセージがたくさんあったと思うので、紹介したいと思います。

○笑い声をあげたり、鋭い指摘に考え込んだり・・・

先生が本当に喜んでおられる姿が身に浮かぶようです。

○真剣に聞き、メモをしっかりとって、自分の言葉で感想を書ける生徒・・・

私が君たちの感想文を読んで感じたことと同じことが書かれています。

真剣に、メモを 自分の言葉で、・・・「自分の言葉で」というのが大切。

聞いて、体の中にしっかりと入れて、もう一度、自分の考えを添えて、アウトプットするという作業はとても大切だと思います。

「自分のこと」「ジブンゴト」としてとらえることができる人間と、そうでない人間「他人事」「自分には関係ない」ととらえる人間では、同じ話を聞いても、同じ時間を過ごしても、それを積み重ねる中で、全然違ってくるということです。

○あらためて感謝いたします。・・・

いくつになっても感謝できるって大切ですね。「感謝」という言葉は、傲慢な気持ちの中からは絶対に出てこない言葉です。謙虚でないと出てこない言葉です。そして、謙虚であれば成長できます。

○素晴らしい後輩諸君・・・

本当にうれしかったんでしょうね。人の心を動かせる機会ってそんなにない。人を感動させる、そういう人間になりたいですね。

○思いがけない生徒諸君の反応を前に調子に乗り過ぎ・・・

授業も同じ、生徒の反応があれば、先生方も調子に乗って、どんどん、どんどんいい授業になってくる。いい授業になればますます、生徒の反応もよくなる。授業は先生と生徒みんなで作っていくもの、一緒になっていい授業を作っていきましょう。

授業が楽しければ学校生活が楽しくなってくる。だって、学校生活の大部分は授業ですから。一時間、一時間の授業で何かを得ようと前向きに取り組んでほしいと思います。

これは、授業に限らず、友人関係、人間関係も一緒です。結局、自分がどう考え、どう振る舞うかです。

さて、その授業の積み重ねの成果を図る中間考査が始まる。

1年生にとっては初めての高校の中間考査。3年生にとっては、9月、10月から進路に関する試験が始まることを考えれば、1学期の成績って大切

です。高校から進学先に送られる調査書というのは、1年生、2年生、3年生の5段階の評定を記入する欄があります。

3年生で2学期の間に自分の受験が始まる人は、3年生の成績は1学期の成績が記載されるということ。これどういう意味があるかわかりますか？

3年生にとって、1学期の中間・期末の2回の考査の結果は、1年、2年の1年間5回の考査と同じウエイトがあるということになります。

成績は、生徒の何割が5で、何割が4でと割合が決められているものじゃなくて、めざす目標に向けて、どれだけ達成できているかで決まるものですから、がんばれば、がんばるほど、結果としてあらわれるものですから、3年生にとっては、この2回のテストで、1、2年を十分取り返せるということ。逆に、手を抜くと1、2年の努力をばあにってしまうということ。

1、2年生にとっては、毎回、毎回のテストをしっかりと手を抜かずにがんばらないといけないということ。

しっかりがんばってください。そのために、元気になる言葉を2つ、ひとりには全く無名の人。そして、ひとりはずごい有名人の言葉を紹介します。

これは、新聞の読者の投稿欄で目にした言葉です。読んでみます。

「入学式や入社式が終わり、一ヶ月近くが過ぎようとしている。フレッシュマンたちは緊張感、不安感などで精神的にも疲れているのではないかと思う。

この4月は誰でもが通り、ある意味では越えなければならない道でもある。数々の壁は、今は苦しいが成長させる人生の先生にもなりうる。その際、新しい職場などでは「元気」とか「やる気」が必要になる。しかし、「本気」ということも忘れてはいけない。

先日、お寺の前を歩いていると「本気であればたいのことができる。本気ですれば何でも面白い。本気ですれば誰かが助けてくれる」と掲示してあった。

確かに、自分自身も本気で取り組んでいるかを日々チェックする。例えば、学校であれば本気で教え、本気で習うことが大切であり、結果として学ぶ楽しさを生むことになる。

書家で詩人の相田みつをさんも「何でもいいからさ 本気でやっごらん 本気でやれば つかれないから つかれてもさわやかだから」と書いている。

何事も本気でやれば「人間の底力」は付いてくる。その大原則は、やはり手間暇かけ、一生懸命することである。

これは、53歳の男性の方の投稿です。「元気」「やる気」「本気」

また72歳のおばあちゃんは、こんな投稿をしておられた。

「考えてみると、私は一生を通して「一生懸命」を続けたのだと思う。一生懸命の中から知恵も生まれ、人の世の真理も見えてきたように思う。継続の中から、人生を生き抜くのに大切なことが引き出されていくと思う。」

最後に、メジャーリーグで今もなお活躍中で、1シーズン最多安打など、数々のメジャーリーグの記録を塗り替えたイチロー選手の言葉を紹介します。

(200安打達成時に)

◇メジャー記録257本?勝手に期待してください。明日明後日に出来る記録ではないので、短期の目標をしっかりと立ててそれをクリアしていきましょう。

(記録達成後次の目標はと聞かれ)

◇次のヒットです。

(結果とプロセスはどちらが大事かと聞かれ)

◇結果は大事。これなくしてこの世界では生きていけない。プロセス(過程)は野球選手としての自分ではなく、人間としての自分を作るために必要。従って優劣をつけられるものではない。

(満足できるときは?と聞かれ)

◇少なくとも誰かに勝ったときではない。自分が定めたものを達成したときです。

(少年たちに)

◇大切なのは、自分の持っているものを生かすこと。そう考えられるようになると、可能性が広がっていく。

「ローマは1日にならず」だとか、「千里の道も一歩から」などという言葉がありますが、どんな大きな偉業も、小さな第一歩から始まるものであり、どんなに小さな事にも手を抜かない努力の積み重ねによりなし得るものだとことです。

努力の人、努力ができるという天才イチロー選手の言葉です。

さあ、中間考査がはじまります。切り替えましょう。スイッチを入れましょう。ギアを入れ直しましょう。

周囲の変化に敏感に反応したり、ここというときに、切り替える、スイッチを入れることができるというのも大切です。スポーツをしている生徒はわかるでしょう。試合の流れを読んで、ここという勝負の瞬間に、スイッチを入れることができる、ギアを入れることができる人って強い。

逆に、エラーが続く時にも、この「切り替える、スイッチを入れ直す。ギアを入れ直すという作業は大切。」

先日、テレビでやってましたが、メジャーリーグの田中将大、まあくんの強さは、それだって。ピンチになると、逆に球速が増すそうです。

きっと、彼は、野球を離れた日常の生活の中でも、スイッチを入れる、ギアを入れ直す、そういう経験、訓練をしてきているのでしょう。全てのことは、全てつながっている。

さあ、中間考査が始まります。このチャンス、みなさんはどう生かしますか。